

総合計画／実施計画書 兼 事務事業評価シート

評価対象年度 H19 年度

評価実施年度 H20 年度

担当部局

部局名
課室名

総務部
総務課

6. 前年度の事業評価					評価に関する視点	
事業の 必要性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	5	時代や市民ニーズの変化への対応、事業目的の緊急性、重要性、さらには他の自治体の動向等を踏まえて評価する。		
理由	行政改革集中改革プランの方針に従った取り組みであり、必要不可欠である。					
行政の 与	1 2 3 4 5 不要 ← → 必要	評価	5	この事業は行政が実施しなければならない事業なのか、民間でサービスを提供できないのか等、民間との役割分担を考慮して評価する。		
理由	行政自体の取り組みであり、永続的な事業である					
手段の 妥当性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	4	行政がこの事業を行うこととした場合、事業実施の方法は妥当か、効率的な方法なのか等、外部委託や受益者負担等を含めて評価する。		
理由	事業実施の手段については、代替手段がない。					
事業の 効果	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	5	事業の効果は上がっているのか、事業は効率的に実施できたのか、事業経費は事業実績と比べてどうか等、費用対効果も含めて評価する。		
理由	現状では、行政改革集中改革プランの目標数値はクリアしており、事業成果は上がっている。					
事業の 予算	1 2 3 4 5 減額 ← → 増額	評価	1	全ての行政経費の削減が求められる中で、予算を減額できないか、できないのであればその理由はなぜか等、事業経費の面について評価する。		
理由	予算措置の必要はない。 退職勧奨の取り組み、新規採用者の抑制等で人件費の削減に効果をあげている。					
人 員 制	1 2 3 4 5 減員 ← → 増員	評価	3	事業経費と同様、職員全体を削減せざるを得ない状況の中で、組織の見直し、グループ制の活用、外部委託等の様々な手法を含めて評価する。		
理由	定員管理計画の進捗管理に関する人員は、現状維持を要する。					
事業 規模	A B C D E F 廃止 終了 統合 縮小 維持 拡大	評価	E	今後の事業規模の方向性について、事業の必要性、緊急性、事業経費や担当職員数の増減等を検討し、社会情勢や市民生活への影響等も十分考慮した上で、事業全体としてどのような方向へ進めていくのかを総合的に判断する。		
理由	定員管理計画の着実な実行は、行政改革集中改革プランの根幹をなすものであり、現状のまま維持させる必要がある。					
その他、特記事項		事業の内容や事業規模に関する意見、補足説明、事業改善の方向性等、特記すべき事項を記載する。				
集中改革プランの職員数に関しては、公営企業全部適用事業を対象から除外した方が望ましい。 (例として、公立病院の再編等により、職員数の増加が見込まれることにある。) 第2次行革プランでは、こうした現状を踏まえて職員数を捉える必要がある。						
部 長	課 長	班 長	担当者			
			内線 2012 E-mail @bungo-ohno.jp			